

住民説明会の結果

1 開催状況

日時	場所	参加者	対象者
10月2日（木）	臥牛担い手センター	28人	最終処分場地区住民
10月16日（木）	西北自治公民館（鬼柳）	31人	北上市ごみ処理場鬼柳地区対策協議会
10月17日（金）	口内地区交流センター	12人	市民、生産者
10月20日（月）	和賀庁舎	2人	市民
10月21日（火）	江釣子地区交流センター	5人	市民
10月22日（水）	本庁舎	11人	市民
10月30日（木）	更木地区交流センター	25人	地区住民（地区からの要望により出向いたもの）
11月7日（金）	岩崎地区交流センター	20人	地区住民（住民からの要望により開催したもの）

計139人

2 主な質問と答え

①焼却関係

Q：試験焼却する量はどれくらいか。

A：ほだ木15トン、牧草5トンを予定しています。

Q：焼却することによってセシウムが大気中に放出されるのではないか。

A：高温で焼却されたセシウムは気体になって排ガスに含まれますが、その後冷やされ気体から固体に戻り、排ガス中の灰に付着します。この灰がバグフィルター（※）という装置で除去されるため、大気中への放出を99.9%抑えることができます。

（※）焼却場の集塵機の中にある、排ガスに含まれる有害物質をとらえるための耐熱性の布でできた筒状の装置

Q：なぜ一般ごみと混ぜて焼くのか。放射能が漏れないのなら混ぜなくてもよいのではないか。

A：放射能汚染農林産物単独で焼くと放射性物質濃度が33倍に濃縮されてしまうからです。汚染農林産物以外の物と混ぜて焼くと濃度が低くなることから、焼却後の灰が少しでも低い濃度になるように、混ぜて焼くこととしました。

Q：他市の例で焼却後数値が上がっているものもあるのはなぜか。

A：一般ごみと混ぜる割合が少なかったため、多少上がっているものと思われます。

Q：ペレット化（※）しないのか。

A：処理対象物が大量の市町では、処理に5年以上かかる見込みのため、腐敗を防止し、長期保管に耐えられるよう、また、乾燥、減量することで焼却しやすくなるよう処置しているものです。ペレット化は最終処分ではなく、あくまでも一時保管するための手段です。

（※）原材料を細かく砕き、圧縮して棒状に成形すること

Q：処理状況はその日ごとに公表するのか。測定結果は随時公表してほしい。

A：清掃事業所での書類の閲覧のほか、ホームページやケーブルテレビを通じて毎日公表します。交流センターにも情報提供します。

Q：処理状況を見学できるか。

A：見学できます。

Q：バグフィルターは交換するのか。また、清掃事業所廃止後どうするのか。

A：数年に一度交換してきており、今回の焼却のために改めて交換しません。清掃事業所廃止後に適切に処分します。

Q：排出されるガスによって農作物が影響を受けることはないか。

A：煙突から排出されるのは水蒸気であり、排出する前にバグフィルターで有害物質を除去するので、農作物には影響ありません。

②埋立関係

Q：最終処分場はあと何年使える見込みか。現在使われている割合と、今回の搬入で増える量はどれくらいか。

A：設計では平成44年までの使用を見込んでいます。埋立できる全体の容量は127,400立方メートル、平成25年度まで埋め立てた累積は65,752.9立方メートル、埋立割合は51.61%です。今回の本焼却で発生するのは約900立方メートルと予想されます。

Q：汚染水が漏れ出すことはないか。

A：セシウムは土壌中の粘土鉱物によく吸着される性質があるので、下にベントナイトという粘土質の土を敷くことで下部への浸透を防ぎます。まわりを遮水シートで覆い、さらに土をかけて、発生した水が外に漏れ出さないようにします。

③その他

Q：生産者や土地所有者には処理に係る金銭的負担を求めるのか。

A：求めません。国庫補助金と特別交付税で措置し、国が東京電力へ賠償請求します。

Q：放射線量測定の範囲はどこまでか。学校を含めてほしい。

A：清掃事業所と最終処分場の内外、周辺の小中学校などを予定しています。ま

た、一時保管場所や前処理施設、運搬経路上でも測定します。

Q：微生物による処理をすることはできないのか。

A：堆肥になったとしても放射性物質はそのまま残ってしまいます。対象物を適正に管理するのは焼却が最善の方法と考えます。

Q：8000ベクレルを超えるものはいつ処分されるのか。

A：国の方針がまだ示されていません。県内の対象物をまとめて処理する施設を一関市に建設する計画も示されていますが、難航しています。一時保管の状況が悪くならないよう、必要に応じ梱包の強化や交換などを行います。

【意見】

○焼却は放射能を拡散することであるから反対。他の方法を検討すべきである。

○焼却に際して市が設定する基準値は絶対安全なレベルまで下げてほしい。

○不安な面もあるが生産者としてはやむを得ないと思う。